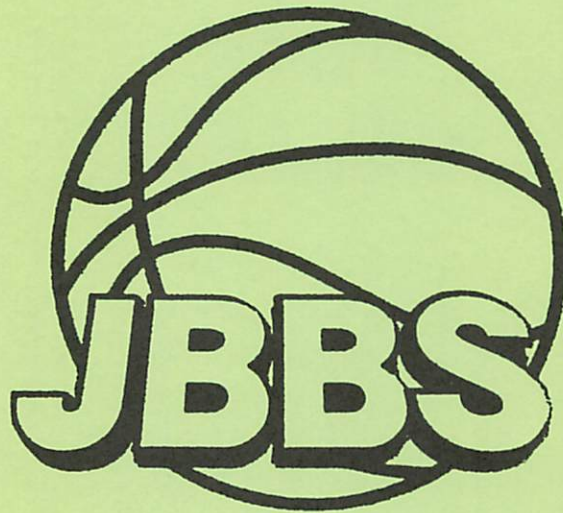


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:33



2007年5月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

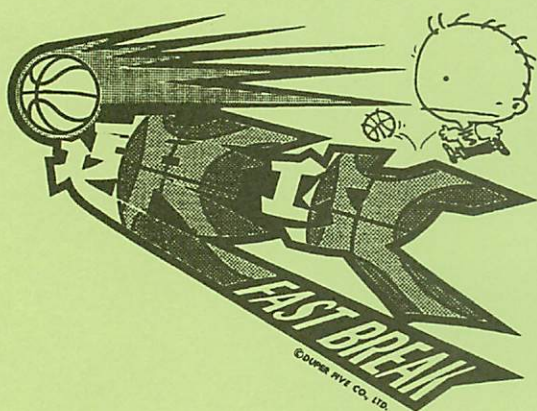


TEAM WORK

ONE for ALL ALL for ONE

©DUPER FIVE CO., LTD.

SUPER 5

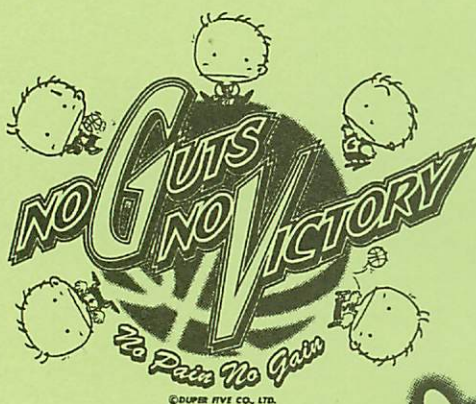


©DUPER FIVE CO., LTD.

DEFENSE FOOTWORK



©DUPER FIVE CO., LTD.

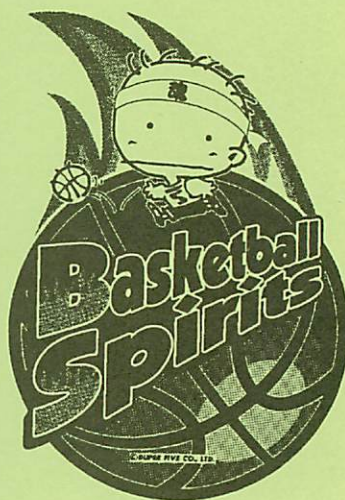


©DUPER FIVE CO., LTD.



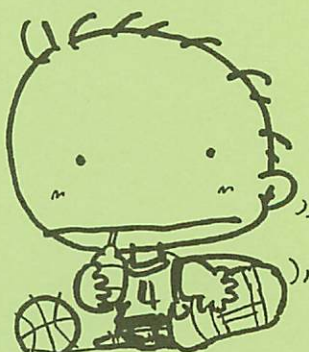
DUPER.

表現の自由人。



©DUPER FIVE CO., LTD.

文武両道



DUPER.®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-35
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp

目 次

○ 特集		
日本鋼管の94連勝	歴史部	3
池田 博 氏に聞く		
○ 2008北京オリンピック出場へ向かって	編集部	9
男女とも強化スタート		
○ 第9回 全国シニアバスケットボール交歓大会	普及部	13
○ 会員だより		
息子たちに感謝	佐古 宏美	15
ミニバス発展にお力を	蒲田 尚史	17
○ 定期総会報告	編集部	19
任意団体として最後の定期総会を開催		
○ NPO法人日本バスケットボール振興会	編集部	25
平成19年度定期総会報告		
○ NPO法人日本バスケットボール振興会	編集部	29
設立記念パーティーを開催		
○ 寺山氏叙勲に輝く！	編集部	31
○ 事務局だより		33
○ プラザ こぼればなし		35

特 集

—— 日本鋼管の94連勝 ——

担当：歴史部

今から半世紀ほど前の昭和20年代に男子バスケットボールで、とてつもなく強いチームがあった。そのチームは現在のJFEスチール会社の前身であった日本鋼管である。

連勝記録は97連勝とも94連勝とも言われ、当時のバスケットボール界では大変な評判だった。連勝の数は以下をお読みいただいた読者の判断にまかせるが、連勝記録の90以上は記録的なことである。当時は毎月2～3試合を行ったとしても年間30試合程度しか試合数をこなすことができないから、単純に計算すれば3年間位負けがなかったということになる。余程の強豪チームでも3年間負けなしというわけにはいかないのがバスケットの世界。今回はそんな連勝記録にスポットを当てて、当時、日本鋼管の選手でもあった池田博氏にインタビューを行いまとめた。



池田 博 氏

大正11年(1922)東京都生まれ、番町小学校から旧制府立高校へ東京帝国大学卒業後、学業継続を目指して浜名海兵団へ進み、その後東京工業大学の研究助手、昭和24年(1949)日本鋼管に入社

上谷 本日は歴史部会として、日本バスケットボール界の連勝、つまり勝ち続けるというテーマで『日本鋼管の94連勝』を取り上げてみました。当時、現役として、また中心的名プレイヤーであった池田さんから、当時の状況、そしてどのように努力して来られたのか生の声をお聞きしたいと思います。司会は島本さんをお願いします。

島本 本日はお忙しい中、お時間を作っていただき有難うございます。私と池田さんとのかわりには、月刊バスケットボール誌創刊当初、毎日新聞の記者をしておられた河合武さんを通じて、お会いした記憶があります。

池田 私も覚えています。河合君は東大バスケット部の後輩でした。

島本 早速本題に入らせていただきますが、日本鋼管に入社されたのはいつごろですか？

池田 半世紀も前の話ですね。終戦から、しばらく経った、昭和24年3月です。

手嶋 日本鋼管に入るまでは、どうされていたのですか？

池田 大学2年から3年にかけて、戦況が悪化し、いつ召集令状が届くか分からない状況になったので、“海軍委託学生”を志願して学業継続の保証を得ました。しかし昭和

1999年9月に繰上げ卒業となり『浜名海兵団』で5年間士官教育を受けた後、技術中尉として、逗子の航空技術廠に配属となりました。ほぼ半年で終戦を迎え、海軍は解散となってしまったのです。

そして、終戦後、兄のついでで東京工大の精密機械研究所を紹介され所長にお会いしました。正式には、『研究助手』になるのですが、既に定員が一杯なので「私のプライベートの研究助手」では、どうかとおっしゃっていただきました。ありがたくお願いして、前任者5名の助手と一緒に自分の好きな研究をしていました。

その頃、復員者が次第に増えてきて、神保町の国民体育館のコートで7大学OBリーグが再開となり、バスケットを楽しめるようになりました。そんな時（昭和23年）横山堅七さんから日本鋼管（当時川崎製鉄所）と一緒にバスケットをやらないかと誘われました。しかし、今の生活に満足しているので、とお断りしました。ところが、『軍籍』にあったものは、公務員から追放する。『新たな任官はみとめない』という、いわゆる公職追放制度が現実味を帯びてきました。

研究所の仲間も、1人、2人と辞める者が出てきましたのでOBリーグで横山さんにお会いしたとき就職の打診をしたところ、「任せておけ、できれば、明日来られないか」とのお話をいただき、翌日たずねていったらまず秘書室へ。「所長に話をしているから人事へ行きなさい」というので人事に行ったら「履歴書持参でいつからでも来なさい」とのことでした。

持つべきものは、よき先輩だと思つづく思つたことでした。3年半お世話になった研究所の所長もこころよく賛成してくださったので昭和24年3月14日に入社しました。

手嶋 横山さんは、昭和23年に新潟から、高橋修さん、山岸さんを誘っていますね。

池田 この2人は鉄興社からさそわれて上京し、郷里の大先輩である横山さんに挨拶に行ったところ「鉄興社には、話をつけてやるから、俺の所に来い」と言われて日本鋼管に入社したと聞いています。横山さんはいい意味ですごく強引なところがありました。

手嶋 引き続き、シベリアから復員してきた早大OBの白神さんが横山さんを頼って入社されました。池田さんが入られた4月には明大新卒の高橋実さんも入社して、F／横山、高橋弟。C／高橋兄、山岸。G／白神、池田。とバランスのとれた強力チームがあつという間に誕生しました。

上谷 そのメンバーで練習はどのようにしていたのですか？

池田 それをお話する前に入社して驚いたのは、広い構内のどこにもバスケットコートらしきものがなかったことです。あつたのは、本部事務所の脇に土に砂をまぜてローラーで固めたハーフコートにお手製のゴールポストが1基と、フリースローラインが1本あるだけでした。

とても練習には使えませんが食堂の近くなので昼休みには、なんとなく集まってきて顔あわせをしていました。本物の練習はマネージャーが探し当てた小学校のコートなどを半分つかわせて貰うのが、精一杯でした。ゲーム、即、練習でいくしかなく、

間もなく始まった『川崎市民大会』『神奈川県選手権』『アイケル・バーガー杯』などに参加しました。ゲームを通じて各人が従来の所属チームでのプレーを脱却し（このチーム）の中でやるべきプレーと、やってはいけないプレーをお互いに理解できてきたのが収穫でした。

そして、前年昇格したばかりの関東実連1部リーグに出場し、名だたる強豪をくだして全勝優勝をとげ、連勝記録のスタートを切りました。

6月の全日本実業団選手権は、創部10年にして初めての『全日本』という名のつく大会への出場でした。会場は進駐軍の好意で提供された（フライヤージム・ヨコハマ）という素敵な大コートで神奈川県民の大声援をうけて、奮起一番、見事に優勝をかざりました。これで、一躍『急変身をとげた鋼管バスケット部』の名がひろがり、練習コートも気安く貸してもらえるようになり、大変助かったことを思い出します。

残るは正月のオールジャパンのみとなり、構内にあった戦時中、徴用工の宿舎であった空き家を借りて、初めての合宿をおこないました。午後5時の終業後、社内食を食べて明大のコートで試合をし、帰り着くのが、9時ごろになりました。部屋に戻るとジャン卓を囲む者、風呂上りに一杯始める者など……、明日の出勤時間を考える者ゼロという、若さあふれる集団でした。

ところが、その宿舎は長期間空き家であったのでノミ、シラミがあばれだし、この合宿は数日間に取り止めになりました。結果的にはこれがよかったのかもしれませんが…。

上谷 天皇杯を獲得した決勝戦の相手は全文理（筑波大の前身）で2度の延長戦の大接戦でしたね。会場は当時東洋一とうたわれた、芝公園の日活スポーツセンターで高松宮殿下を始め、15,000人の大観衆が観戦したと記録されていますね。

池田 当時の試合は神保町の国民体育館や、駿河台の明大体育館など小さな会場でいずれも正規の観覧席がなく、2,000人位で満員でしたが、バスケの人気は大変なものでした。天皇杯の試合の様子はNHKラジオで全国放送されたそうです。

過去全日本のタイトルは学生チームやクラブチームによって独占され、実業団チームは手が届かなかったのですが、日本鋼管が初めて獲得したことを知り、全従業員が沸きかえりました。戦争中の爆撃から立ち直りつつあった若い作業員たちが、俺たちだってやれば出来るんだと、自信とやる気を出してくれたのが嬉しかったです。

上谷 昭和26年ごろになるとまた学生陣が力をつけてきたようですね。

池田 2回目の天皇杯決勝の相手は、慶応義塾大でした。立教大、東京教育大、早稲田大なども次々に台頭してきて実業団と競い合う時代へとつながっていきます。

島本 日本鋼管連勝の原動力が、リーダーである横山さんを中心に、メンバーが互いに切磋琢磨し、強力な団結力の賜物だということがよく理解できました。

池田 さらに、会社を挙げてバスケット部を応援してくれたことも大きな力になりました。社内のバスケット大会では、32にも及ぶ部署がチームをつくって参加し盛り上がっ

たものでした。

従野 池田さんの高く跳びあがったジャンプシュートは当時憧れの的でした。

黒川 鋼管の得点源でしたね。飛び上ってってから滞空時間があり、一緒に飛び上がったディフェンスが先に落ちていました。ジャンプ力は抜群でしたね。

島本 それは、どのようにして会得されたのですか？

池田 7年生高校の4年の夏でした。合宿練習が終わってグラウンドに出て涼んでいたことです。このままバスケットを続けるなら、オリンピックに参加できるようになりたい。どうやったら外人との身長の手短を克服できるかを考えました。それには、高く跳んで打つジャンプシュートしかないと考えました。

早速、近くにあった陸上競技部の走り高跳び台を使って跳んでみました。（当時は現在と異なり正面跳びでした）少しずつコツが分かり、身長の高さをクリアできるようになりました。嬉しかったです。しかしハイジャンプは跳んで砂場に落ちれば OK ですが、バスケットの技術とは同一視できないことに気づき、ハイジャンプは踏み切りのコツやバネの強化にしばらく、やはりコートでボールを使って練習することにしました。

練習のイメージとしては、つぎの3点を心がけました。

- ① 短く早いドリブルの後、強く真上に踏み切る
- ② 両腕は肘を曲げずに真上に伸ばす
- ③ 両手首と掌・指のスナップを使ってシュートする。

合宿がおわった後も、時々学校に出かけてトライしました。仲のよかった部員が付きあってくれて、手伝いながら色々アドバイスしてくれたのが大変役に立ったことを感謝しております。真上に跳んでは体の慣性で前方に流れるから、ディフェンスに近づかないように後ろに向かって踏み切る意識に変えました。

ハイジャンプの練習は跳躍力強化のため、卒業まで続けました。1年に10cm近くのび3年ごろはつねに身長の高さをクリアすることに挑み、卒業のとき最高の173cmを跳ぶことができました。

黒川 池田さんは両手でジャンプシュートをしていましたね。

池田 高等科に進んでからですが、夏休みにジャンプシュートの練習を長く続けると疲れて高く跳べなくなってきました。休憩の時、遊びのつもりで片手でやってみたら楽に打って確率も悪くない。早いタイミングでシュートに持ち込めるから助走して高く飛び上がる必要がなさそうだと感じました。先輩のコーチに話したら、両手でもあまり入らないのに片手は無理だと一蹴されてしまいました。あの時ワンハンドを続けていたら日本でワンハンドジャンプシュートを創設した歴史的人物になっていたでしょう……。 (笑い)

島本 アメリカで最初にワンハンドのシュートをしたのがスタンフォード大学のハंक・

ルイゼッティという選手です。彼も池田さんと同じように、両手よりも片手の方が楽に投げられるとコーチに言ったら、それを認められワンハンドシュートの考案者となりました。

池田 日米の違いですね。疲れてくると両手のシュートは難しくなります。

日比野 当時、東洋高圧の八谷さんもコーナーから片手で投げていましたね。

池田 八谷さんはジャンプシュートではなかったですね。片手を利かせていましたが、足は床についていました。

黒川 日本でワンハンドシュートが普及したのはハワイのチームが来日してからだと認識していますが。

池田 その通りだと思います。

手嶋 さて、池田さんはどのようなキッカケでバスケットを始められたのですか？

池田 麴町区（現千代田区）の番町小学校で6年生に進んだ時、体育の先生として清水英樹先生が着任されました。この先生が、誰も使っていなくて講堂の壁についていたバスケットボールのゴールを使って手ほどもしてくれました。

秋に初めての麴町区の小学生大会が行われた時、当時チビ助であったのに選手に選ばれてチームプレーを教えられダントツで優勝しました。これがバスケに嵌り生涯ガードになったキッカケです。

手嶋 最後に現在のバスケットに対する、ご意見を伺いたいのですが。昨年の世界選手権もご覧になっていますね？

池田 今の時代では、プロができなければ日本のバスケットは強くならないと思います。一番のポイントはそこにあると思います。

手嶋 昨年日本で開催された世界選手権を見て、世界の流れが攻撃的防御をやっていると感じました。オフェンスは1対1や2対2の攻撃が中心でしたね。

島本 非常にシンプルでしたね。最強と言われたアメリカが勝てなかったのは、やはりチームとしての練習時間が少なく、十分機能していなかったことが原因だと思います。また、東京オリンピック以来、42年ぶりに世界の大会を日本で開催したことは、きちんと評価しなければいけないと思います。この機会を的確に捉え、日本のバスケットが飛躍することを願って、インタビューを終らせていただきます。

池田さん貴重なお話をお聞かせいただき、どうも、有難うございました。

★後記

日本鋼管バスケット部60年史に畑龍雄さんが（雑感日本鋼管）として、次のような一文を寄稿しています。

『単に強かったというだけでなく、最も気品のあるチームで有り続けている。この点こそ日本鋼管チームの最高の誇りであろうと』

2年あまりにわたって勝ち続けたチームを表するに相応しい言葉だと思われます。戦後間もない時代に横山さんのもとに結集したバスケットボールの俊英たちが、強い結束力と誇りをもってバスケットコートに情熱をそそいだ姿を知ることが出来ました。わが国バスケット界のバックボーンである、日本鋼管（その後NKK）の歴史はこうした先輩たちのたゆまぬ努力によって築かれたことを記録することができたことに喜びを感じます。池田さん所有のスクラップも貴重な資料であることも付記しておきます。

（上谷富彦）

☆補足

清水英樹先生は、その頃の文部省が新たに定めた『小学校の体育専門教師』の第1号で最初に赴任したのが番町小学校だったそうです。後に東京都の体育協会副会長、都バスケット協会理事長や関東実連の理事などを歴任され、知らぬ間にお世話になっていたことを、振興会におられる長男の清水英邦さんから伺いました。私にとって忘れられない先生でしたが、先生がチビ助をおぼえておられたはずもなく昔のお礼を申し上げる機会を失ったことは残念で堪りません。謹んでご冥福をお祈りするばかりです。

（池田 博）

2008北京オリンピック出場へ向って

男女とも強化スタート

[編集部]

2008年に中国北京で開催されるオリンピックへ向けて、日本代表チームが男女とも強化をスタートさせた。

北京オリンピック出場は、アジアでの強敵中国が開催国として出場できるため、中国以外の各国が出場切符を手にするべくしのぎを削る。その予選を兼ねたアジア選手権大会は、男子が日本の徳島市で、女子は韓国の仁川市で開催されるが、男女とも出場切符を手に入れることは容易ではない。

既に男女とも代表チームの強化をスタートさせているが、今回はそのスケジュールと日本代表候補選手などを以下に紹介する。

[男子チーム] スタッフ

	氏 名	所 属
スーパーバイザー	杉浦 良昭	日本バスケットボール協会男子強化部長
ヘッドコーチ	鈴木 貴美一	アイシン精機
アシスタントコーチ	田中 輝明	東芝
ドクター	森 淳	日本医科大学
総括	吉田 長寿	日本リーグ機構
マネージャー	宮崎 祐次	アイシン精機

選 手

No	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
1	佐古 賢一	PG	179	81	36	アイシン精機
2	五十嵐 圭	PG	180	68	26	日立
3	柏木 真介	PG	183	80	25	アイシン精機
4	石崎 巧	PG	188	85	22	東芝
5	折茂 武彦	SG	190	77	36	トヨタ自動車
6	桜井 良太	SG	194	73	23	トヨタ自動車
7	菊地 祥平	SG	190	85	22	東芝
8	川村 卓也	SG	191	80	20	オーエスジー
9	網野 友雄	SF	196	87	26	アイシン精機
10	大西 崇範	SF	195	95	23	松下電器
11	山田 大治	PF	200	105	25	トヨタ自動車
12	佐藤 託矢	PF	198	105	23	三菱電機
13	竹内 公輔	PF	205	98	22	アイシン精機
14	竹内 譲次	PF	205	93	22	日立
15	青野 文彦	C	210	120	28	松下電器
16	伊藤 俊亮	C	202	97	27	東芝
17	太田 敦也	C	206	102	22	オーエスジー
	平均		195	90	25	

[男子強化日程]

第1次合宿	4/19～4/22	国立スポーツ科学センター
第2次合宿	4/26～4/29	アイシン精機体育館
第3次合宿	5/2～5/5	アイシン精機体育館
第4次合宿	5/10～5/13	東芝体育館・代々木第2体育館
第5次合宿	5/17～5/20	国立スポーツ科学センター
第6次合宿	6/7～6/10	国立スポーツ科学センター
第7次合宿	6/14～6/17	調整中（国内）
第8次合宿	6/21～7/4	海外遠征
第9次合宿	7/9～7/11	調整中（国内）
第10次合宿	7/21～7/25	調整中（国内）

[第24回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会兼北京オリンピック予選]

平成19年7月28日～8月5日

徳島県徳島市

去る4月19日、鈴木貴美一ヘッドコーチは、活動開始の記者会見において次のようにコメントしている。

鈴木ヘッドコーチ

昨年の9月、全日本代表チームのヘッドコーチに就任し、1週間の合宿後アジア競技大会に行ってきました。それ以前からアジア諸国のチーム力については、把握していたつもりですが、中近東諸国がヨーロッパと同じスタイルのバスケットをやっているのに対して、緻密なバスケットボールをやっているのは中国、韓国、台湾、日本という感じです。特に中国は高さもあり頭一つ抜けている状況ですが、残りの8チームは実力の差が殆どない状態でした。

北京オリンピックアジア予選まで3ヶ月ほどですが、チーム作りは週に4日活動、3日休息というパターンで合宿を行っていく予定です。活動日は1日2回の練習を組み、若手には追い込んだフィジカルな練習もやる予定です。

アジア競技大会は本番まで1週間しか時間がなかったため、戦術的にベテラン中心でしたが、今回は3ヶ月あるので若手やユニバー候補選手の選考を含めて、将来日本代表入りする可能性がある選手もプラスして合宿を行っていきます。

JBLのゲームで外国人選手が2人いることもあって、日本人選手にリバウンドの意識が薄くなっていることが課題であり、その点ではオフェンスのときよりもディフェンスリバウンドの徹底がポイントになります。

皆さん方におかれましては、アジア予選の開催地が日本の徳島なので、モチベーションを上げる取り組みをしていただきたいと思います。そして、そのプレッシャーをエネルギーに変えて日本のために頑張りたいと決意しております。

[女子チーム]

スタッフ

	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	内海 知秀	JOMO
コーチ	梅寄 英毅	山梨学院大学
アシスタントコーチ	萩原 美樹子	早稲田大学大学院

マネージャー	高橋 雅弘	J O M O
サブマネージャー	成井 千夏	J O M O

選 手

No	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
1	大神 雄子	P G	1 7 0	6 3	2 4	J O M O
2	吉田 亜沙美	P G	1 6 5	6 4	1 9	J O M O
3	榊原 紀子	S G	1 7 5	6 9	2 8	トヨタ自動車
4	岩村 裕美	S G	1 6 8	6 3	2 5	日本航空
5	内海 亮子	S G	1 7 5	6 9	2 1	J O M O
6	三谷 藍	S F	1 8 2	6 8	2 8	富士通
7	渡辺 由夏	S F	1 8 0	7 2	2 5	シャンソン化粧品
8	磯山 絵美	S F	1 7 5	6 4	2 5	日立ハイテク
9	池田 麻美	P F	1 7 8	6 7	2 5	トヨタ自動車
1 0	矢代 直美	C	1 8 2	7 2	2 9	日本航空
1 1	山田 久美子	C	1 9 2	1 1 8	2 8	J O M O
1 2	諏訪 裕美	C	1 8 3	8 4	2 1	J O M O
	平 均		1 7 7	7 3	2 5	

[女子強化日程]

第1次合宿	4 / 5 ~ 4 / 1 2	J O M O 体育館
第2次合宿	4 / 1 6 ~ 4 / 2 3	J O M O 体育館
第3次合宿	4 / 2 6 ~ 4 / 2 9	J O M O 体育館
第4次合宿	4 / 3 0 ~ 5 / 1 4	オセアニア地区海外遠征
第5次合宿	5 / 1 8 ~ 5 / 2 3	J O M O 体育館
第6次合宿	5 / 2 6 ~ 5 / 3 1	J O M O 体育館 (非公開)

[オセアニア地区遠征試合の結果]

5月2日 (水)

日本 8 9 — 3 6 W A I K A T O
(ニュージーランド・ハミルトン市選抜チーム)

5月3日 (木)

日本 1 0 5 — 5 0 B R E E Z E
(ニュージーランド国内リーグWNB L所属チーム)

5月4日 (金)

日本 9 4 — 4 7 A U C K L A N D

5月5日 (土)

日本 8 0 — 7 5 N Z C o m p o s i t e T e a m
(ニュージーランド代表候補を含む混成チーム)

5月7日 (月)

日本 5 9 — 6 6 A I S
(オーストラリアスポーツ研究所チーム)

5月8日(火)

日本 78 — 73 AIS
(オーストラリアスポーツ研究所チーム)

5月10日(木)

日本 72 — 52 オーストラリア U-21代表チーム

5月11日(金)

日本 78 — 66 オーストラリア U-21代表チーム

5月12日(土)

日本 95 — 60 オーストラリア U-21代表チーム

5月13日(日)

日本 73 — 70 オーストラリア U-21代表チーム

[第22回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会兼北京オリンピック予選]

平成19年6月3日～6月10日 韓国 仁川市

出場国=レベル1

中国、韓国、日本、チャイニーズタイペイ、タイ、マレーシア

総当たり予選リーグの後4チームによる決勝トーナメント

[日本チームの日程]

6月 3日(日)	17:45	日本 VS 中国
6月 4日(月)	17:45	タイ VS 日本
6月 5日(火)	17:45	日本 VS チャイニーズ・タイペイ
6月 6日(水)	20:00	日本 VS 韓国
6月 7日(木)	17:45	マレーシア VS 日本

6月 9日(土)	17:45	準決勝戦	20:00	準決勝戦
6月10日(日)	20:00	決勝戦		

.....

北京オリンピックへの出場切符は

男女ともオリンピックに出場できるのは、このアジア予選で優勝した1チームだけである。中国は開催国としてオリンピックに出場できるので、中国が優勝した場合は準優勝国がオリンピック出場権を獲得する。

万一今回のアジア予選で敗れた場合は、別途開催される世界予選に出場して勝ち上がらなければオリンピックに出場できない。この世界予選に出場できるのは優勝チームを除く上位2チームだけである。

日本のバスケットボール発展のためにも、オリンピックにはなにがなんでも出場しなければならないだろう。日本代表チームに頑張ってもらうためにも、バスケットボール界を挙げた総応援体制を敷く必要があるのではなかろうか。

選手たちは数次の合宿で努力しているが、私たちもできることから応援したいものである。

第9回 全国シニアバスケットボール交歓大会

[普及部]

去る4月28日～29日、全国シニアバスケットボール交歓大会が埼玉県東松山市で開催された。

大会には全国から男女14チームが参加、和気あいあいの雰囲気が進められたが、普及部では全国各地で開催されているシニア大会の発展・振興にどのような協力・支援ができるのかを検討するため、前回はアンケート形式による意見集約を行なったが、今回は参加チーム代表者の方々にお集まりいただいて直接意見を伺うこととなった。

「勇気をくれる言葉が主役」というのが今大会のタイトルで、高齢者社会へ進みつつあるなかで、健康を維持していく上からも欠かせない大会となりそうである。

今大会の競技要綱概要

年 齢	超シニアの部	男性：59歳以上	女性：50歳以上
試合時間		6分クォーター制	6分クォーター制
年 齢	シニアの部	男性：50歳以上	女性：40歳以上
試合時間		8分クォーター制（必ず10名以上登録・全員試合出場）	

第1～第3クォーターでは、ゾーンディフェンスとし、第4クォーターのみフリーディフェンス、その他は現行ルール通り。

各チーム代表者からの情報と意見

- ・ 「北海道高齢者バスケットボール交歓大会」札幌、帯広、旭川、函館で開催。84歳位の選手もいる。帯広には60歳以上の選手が20名以上いる。
- ・ 「秋田県超OBシニアバスケットボール交流大会」年齢50歳以上が出場できる。
- ・ 「平成〇〇年度八幡カップ全国シニア交歓大会」山形・男子のみ40歳以上。
- ・ 「新潟県シニア交流大会」新潟県、県内各地区で持ち回り開催。参加14チーム、出場資格40歳以上、14回ほど開催。60歳以上の選手は還暦の鉢巻きを着用してプレーする、3ポイントエリアからのシュートは得点5点。勝ち負けにこだわらず交流が主体。
- ・ 「沖縄県シニアバスケットボール大会」沖縄県、九州地区の大会にも参加。
- ・ 「横浜マスターズ大会」神奈川県、毎年9月23日に横浜市内で開催、40歳以上が出場資格、参加チーム男女で約30チーム。
- ・ 「各区単位のシニア大会」東京都各区。
- ・ 春、夏、秋3チームでシニアのリーグ戦開催。千葉県船橋。
- ・ 「名古屋地区チームと定期戦」女性チームとも試合。兵庫県神戸、平均年齢70歳。

この他長野、栃木、岐阜県など全国各地で盛んにシニアの大会が開催されている。各大会の参加チーム数は多少で、なかには試合を行なうために対戦相手を求めて、他の地域へ遠征しているチームもある。ルールについてはそれぞれ大会によって異なっているようである。

年齢制限も各地域でそれぞれ決めており、登録選手が少ない場合などに男女混合チームを編成して出場しても良いケースもあり、その運営はかなり弾力的に行なわれている。

また、目的も競技を競うより「交流、交歓」を優先しているところが殆どで、試合を楽し

み個人やチームでの交歓が数多く行なわれている。

いずれもバスケットボールを通じての交流が主体だが、遠征した先での観光も大きな楽しみになっているケースが多い。各チームとも自分たちの地域で試合を行ないたいがなかなか同じような相手チームがないため、他の大会に参加したとき知り合ったチーム同士で個々に交流戦を行っている場合もある。

各チームの考え方をまとめてみると以下のようになった。

- ① 交歓、交流を主たる目的に数多くの試合を楽しみたい
- ② 試合を行なうことも良いが、各地域に遠征して観光することも楽しみ
- ③ 狭い地域ではチームが少ないので、他地域と交流試合を行いこれには誰でも参加できるようにしたい
- ④ 登録やルールなど運営は弾力的を希望するが、50歳以上の年齢枠大会も欲しい

振興会としてどのような支援、協力ができるのか検討してみると次のようなことがあげられる。

- 会報「バスケットボールプラザ」を情報交換、交流の場として活用する
- シニアバスケットボールネットワークの構築
- 会員である往年の名選手を大会や交流試合に派遣する
- 一定の条件を満たした大会へ助成し、報告書を提出いただいて「プラザ」に掲載する
- 代々木第2体育館で平日に交流大会を開催することの企画

コメント

年齢制限、ルールなどは大会ごとに決められた規則に従い、試合を楽しみ、チームと個人での交歓を行なうことがシニアチームの皆さんの大きな要望であり、今後振興会としてどのようなことが優先して具体化できるか検討する必要がある。いずれにしてもバスケットボールを楽しむという目的で、これから数多くのシニアチームが増加する傾向にあり、普及部としては各地域の大会との連携をもつことが、振興会の発展につながるのではないかと考える。

シニアバスケットボールの皆さんは、バスケットボールの試合を通じて「交流、交歓」をより楽しみにしていることを付け加えておく。「元気」と「楽しい」がキーワードでもある。



REUSE を考える

[環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない” これが私たちの願いであるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 | 検定球
貼り・天然皮革、7号球

